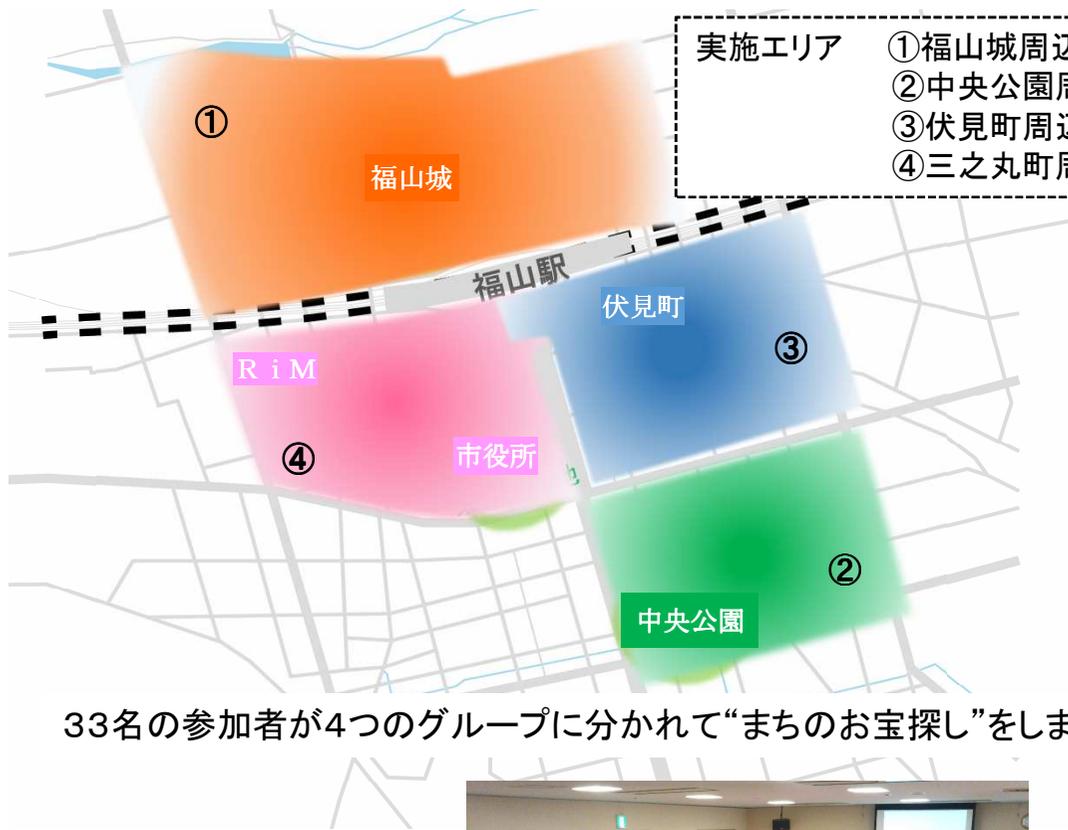




# まちのトレジャーハンティング@福山 開催しました (実施日時 2018年(平成30年)11月24日・25日)

福山駅前とその周辺エリアにある空間資源や文化資源、歴史資源を地域住民と専門家が一緒に探し、その活かし方や使い方を考え、福山駅周辺とその周辺エリアの将来像を考える“まちのトレジャーハンティング@福山”を開催しました。

2日目の公開プレゼンテーションでは、参加者の皆さんが考えたエリアの将来像を提案していただきました。これらの提案内容は、現在策定を進めている(仮称)デザイン計画にも反映していきます。



33名の参加者が4つのグループに分かれて“まちのお宝探し”をしました。



公開プレゼンテーションでは、各グループから、それぞれのエリアのお宝を活かした将来像の提案がありました。

各グループの提案内容は次ページ





# まちのトレジャーハンティング@福山 提案の内容 ~参加者から提案された4つのエリアの将来像~

## 【福山城周辺エリア】

### 特性・現状

- ・福山のランドマークとなる福山城
- ・鉄道によって、城とまちが分断されていて、城と駅間の道路は閑散としている。
- ・駅のすぐそばにあるのに、コンテンツが少なく、日常的に利用する市民が少ない。(特に若者)

### ★ まちのトレジャー

- ・福山城天守閣
- ・月見櫓や福寿会館など歴史的な資産
- ・美術館や博物館などの文化施設
- ・駅に隣接する噴水広場などの空間
- ・プールやテニスコートなどのスポーツ施設

### 提案内容 「市民が日常的に利用するPark~福山城を使い尽くす~」

- ・城やその周辺エリアを市民が日常的に利用する公園に見立て、まちや生活と繋がった場所に変える。
- ・まずは、城郭エリア内の人々が自由な時間を過ごすことができる場所にする。  
例えば・・・ 眺望の良い場所にオープンカフェテラスを新設  
湯殿や櫓を自習室などのフリースペースにする など
- ・城郭エリアを皮切りに周辺エリアも変えていく。  
例えば・・・ 美術館前の広場でマルシェなどを開催  
プールをランニングステーションや城を望むことができるナイトプールに  
噴水広場は、足湯として利用したり、キッチンカーゾーンを作る など
- ・公共空間などを新しい使い方を楽しむことで、福山城エリアは市民が日常的に訪れたい公園になる。



【未来の福山城MAP】▶

## 【伏見町周辺エリア】

### 特性・現状

- ・新幹線(のぞみ)が停車する駅に隣接
- ・現在は、空き家や空き店舗も多い。
- ・古い建物が残っていて、雑然とした雰囲気が魅力的
- ・空間的なポテンシャルは十分にあり、再生に向けた転機にある。

### ★ まちのトレジャー

- ・解体されずに残っている古い建物
- ・雑然とした雰囲気を醸し出す街並みや路地
- ・動き出した民間のプロジェクト

### 提案内容 「Deepな魅力を掘り下げた瀬戸内ツーリズムの玄関口」

- ・瀬戸内のローカルな島々を巡る「瀬戸内ツーリズム」の玄関口となるエリア
- ・旅の最初の夜と最後の夜に、発見と出会いに満ちた思い出に残る時間を過ごすことができるエリアとなるよう魅力を掘り下げる。  
例えば・・・ 路面には、個性的な飲食店などの店舗が並ぶ  
リノベーションしたまち宿が点在  
サイクリストたちのスタート・ゴール地点
- ・店主や地域住民などで、エリアをデザインするチームを作り、主体的にまちを管理・運営する仕組みを構築する。



【まちの管理運営体制のイメージ】▶

## 【三之丸町周辺エリア】

### 特性・現状

- ・大規模商業施設や立体駐車場、公共施設が多くある。
- ・近年は、マンションやホテルの建設も多い。
- ・常に新しいものを受け入れ、時代のニーズに反応してきたエリア
- ・1階部分が駐車場やエントランスなど無表情な空間になっている建物が多く、路面のにぎわいが低下している。

### ★ まちのトレジャー

- ・利便性が高く居住に適した環境
- ・個性的な店舗が集積
- ・小ぶりながら、新しい店舗をはじめる若者の増加
- ・新しいものを受け入れるまちの精神的な土壌

### 提案内容 「BET TOWN ~高齢者の生きがいと若者のチャレンジが同居するエリア~」

- ・利便性が高く、個性的な店舗が集積しているという現状を活かして、若い世代とそれを応援する高齢者により、新規創業が次々に生まれるエリアに変える。
- ・グランドレベルを歩いて楽しめる空間に変える。  
例えば・・・ 建物の1階には、ここでしか手に入らないようなモノやコトを扱う個性的な小売店舗を形成  
歩行者優先の空間や緑あふれる公共空間を創出
- ・居住する高齢者と起業する若者が、まちなかで相互に良い関係を築きつつ、まちが継続的に発展する“三之丸Style”を確立する。



【三之丸Style】▶

## 【中央公園周辺エリア】

### 特性・現状

- ・中央公園、中央図書館という市民が多く訪れる公共施設がある。
- ・中央公園は、藩校 誠之館があった福山の教育発祥の地
- ・商店街はシャッターが下りた店舗や建物が解体され駐車場になった敷地も目立ち、にぎわいを感じにくくなっている。
- ・中央公園に子どもの姿はあまり多くなく、気軽に座れる場所もない。
- ・図書館で、自習している人は多いが溜り場となるスペースはない。

### ★ まちのトレジャー

- ・歩きやすく整備された商店街の歩道
- ・多種多様な個人商店
- ・多国籍な店舗(タイ、ベトナム、スペインなど)
- ・学習塾から専門性の高い習い事までバリエーション豊富な学びの場
- ・老朽化した校舎を取り壊してきた中庭  
〔学校と地域が共に管理している〕  
子どもたちの居場所

### 提案内容 「なりたい自分、やりたい事に出会い共に成長するまち~共育(ともい)の郷~」

- ・エリアの将来に必要なことは、まちの見た目を変えるのではなく、「まちと関わる機会」をつくること。
- ・人とまちが相互に成長できるよう、共に学び、共に作り、共に育つ“共育(ともい)”を進める場にする。
- ・知識を学ぶだけでなく、遊びや体験を通じて、好奇心を育てることができるコンテンツが日常に溶け込んでいるエリアにする。  
例えば・・・ 中央公園で青空の下、学生たちが勉強している。  
開放的に変わった図書館の屋上で子どもたちが自由に遊んでいる。  
商店街の空き店舗や空き地が菜園やアウトドアオフィスに変わっている。  
地域のなかで、子どもたちが面白い体験などを通じて学校では学べないことを日常的に学んでいる。

